

立命電友会

根っこは大学に在り

オムロンヘルスケア(株)勤務

巻田 茂
(昭和53年院卒)



はじめに、昨年3月11日に起きた東日本大震災から1年が経ちましたが、大震災ならびに原発事故で被災された学友の皆様には心からお見舞い申し上げます。まだまだ復旧は道半ばですが、タイの大洪水も含め、復旧に尽力された皆様には深く感謝するとともに、微力ながら私も支援させて頂く所存です。

私は1972年春に理工学部電気工学科に入学して以来、40年の節目を迎えることになりました。また後1年少しで60歳になり、現在も電気関係の仕事をしていまして、実に人生の約3分の2を「電気」と共に過ごしたことになります。

【学生時代の思い出】
思い起こせば、当時は未だ御所の横に広小路学舎があり(1981年に衣笠学舎へ全学部移転し学舎統合)、学園祭を広小路学舎の狭いながらも京都らしい雰囲気のある場所で、楽しく過ごした記憶が今も脳裏に焼きついています。また電気工学科も衣笠キャンパスの四号館にありました(1994びわこ・くさつキャンパスが開設し理工学部拡充移転)。

当時は、1階の入り口の横に実験室があり、KW級の電動機の唸る音や木製のラックに縦横に取り付けられた白熱電球の明かりが眩しく、まさに「重電」という言葉を実感しました。さらに奥の部屋には、ものものしい高電圧実験装置があり、地上の稲妻・落雷放電実験の凄さを覚えています。

【技術の根っこ】
強電の圧倒的なパワーには押されましたが、大学時代に大きく変わったのは、計算機・コンピュータといっても過言ではないと思います。大学にはピアノの数回り大きなリレー式計算機の名残があり、友人宅には機械式計算機(手回し式計算機)がまだありました。

付けられた白熱電球の明かりが眩しく、まさに「重電」という言葉を実感しました。さらに奥の部屋には、ものものしい高電圧実験装置があり、地上の稲妻・落雷放電実験の凄さを覚えています。

また、技術の進化は高度化だけでなく、コモディティ化した製品で海外に価格競争で勝つためのローコスト化技術もあります。このローコスト化については、私の実家が食堂をしていたこともあり、身の回りの料理に喩えて後輩に判りやすいように説明しています。

【絆の根っこ】
昨年は、東日本大震災やタイの大洪水、原発事故、超円高など、多くの苦難が産業界にのしかかりましたが、日本はそれを乗り越えて来ました。この原動力は単なる技術力だけでなく、日本人の絆の強さにあると思います。

目次

- P1 …… 巻頭言
- P2 …… 退職のご挨拶
- P3 …… 卒業生からの投稿
- P4 …… 卒業生からの投稿
- P5 …… 卒業生からの投稿
- P6 …… 就職・進学状況
- P7 …… 支部総会・同総会便り
- P8 …… 会長活動報告

なっています。これは、2の20乗です。2年毎に倍のペースで進化してきたことになり、しかし、規模は劇的に進化しましたが、敢えて言うならその原点である基本ロジック・理論は大きく変わっていないと思います。

大学で学んだ基礎知識や基本原理・理論、実践はその大きなウェイトを占めており、「技術の根っこ」となっていると思います。

退職にあたって

退職のご挨拶

荒木義彦
(昭和47年3月大学院修士課程修了)

本年3月末日で定年退職致します。退職の挨拶を書くようにという依頼を電友会から受けました。在職中は、過去を振り返っても後悔する事だらけですので過去は済んだ事とし、足元だけを見て振り返らないと決めていたのですが、退職にあたって過去を想い出すままに(自分に都合の良いように)振り返ろうと思います。

大学卒業時(1969年3月)は東大や日大などでの学園紛争が収束にさしかかっていましたが、立命館大学では収束には程遠く、当時の電気工学科の建物(4号館)は4月になってから封鎖されるような状況でした。3月20日に予定されていた卒業式も結局中止になり、後日大学から卒業証書とともに、当時の末川博総長の卒業式を差し控える事になった事情説明とお詫びの言葉が「卒業する諸君へ、君の洋々たる前途を祝福して」と題した色紙とともに郵送されてきました。卒業証書は度重なる引越ashiによって何処にしまい込んでわからなくなりましたが、色紙は手元に置いてあり、今でもときどき眺めています。元来式典などは好まない性格であり、卒業式が中止

になったと聞いたときも特別に残念と思った記憶はありませんが、末川総長からのこの色紙は、特にこの10年の学園の姿・目指す方向が混迷の度を深めるにつけて、いままも昔も教育機関のリーダーが持つべき哲学観について考えさせられます。

平凡な教師であり、さして他人にお伝えするような業績があるわけではありません。学生時代は井上和夫元名誉教授のもとで、学習制御や人間の思考方法などを研究していました。修士課程修了後、助手に採用されて引き続き同研究を継続し学位を授与されました。助教昇進後はタッチタイピングの入力特性の解析や、大学での学生の学習意欲向上のためのオンラインシラバスの開発あるいは大阪市の柴山守教授との共同研究で古文書画像解析などの研究に携わってきました。これらの研究に取り組んでいた大学院生が電気関係学会関西支部での発表により奨励賞を授与されたことが良い思い出です。教育は主に情報科学や情報処理、プログラミング演習など情報処理関連科目を中心に担当してきました。1980年代の限られ

た計算機設備の中での演習の苦勞や工夫も懐かしく思い出します。助手時代から、計算機センターの立ち上げや事務システム・図書館システムの開発など、教員としてなかなか経験できないような仕事に携わることができました。また、理工学部拡充移転の委員や学生部あるいは理工学部・総合理工學院の役職なども経験しました。学園の百年史の編纂に10年間携わり、立命館発展の先駆けとなるBK開学など1990年代の記述を担当しました。これらの役職を通して事務職員の方々の活き活きとした仕事ぶりを目の当たりにして、学園の一体感を強く感じると同時に多くのことを考えさせられました。教育研究とこれらの仕事の両立はなかなか困難なこともありましたが、当時の苦勞は今となっては楽しい思い出となっています。苦勞を共にした職員の方々とはいまでも交友が続いて、一生の財産になりそうです。

過去を追わず、未来を願わず

杉本末雄

とうとうと云うか、やっとと云うか、本年3月末日でもって65歳の定年退職となります。多くの諸先輩がもたらされる感慨ですが、「あつという間の」、楽しい立命館大学での生活でした。13年4カ月勤務した前任校である大阪大学工学部から、1988(昭和63)年4月に、衣笠キャンパスの4号館にあった電気工学科に赴任してから、定年まで24年間立命館でお世話になったこととなります。深く感謝しております。

1988年4月に、本学に赴任した時の感激が思い出されます。大阪大学時代は、助手(現、助教)、学内的には講師ということでしたが、助手は教授会はもちろん学科の教室会議にも参加できないという風通しの悪い不自由な生活でした。立命館は自由と清新、また民主的な大学という雰囲気が満ち溢れていた頃でした。衣笠時代は、正月には、総長、理事長、教職員組合代表など全教職員が、法学部の建屋の1階にあった生協食堂に集まり、新年を祝う会がもたれました。ミカンと日本酒一合瓶が出されました。そのころは全立命館構成員が一堂に会する場が少なからずあり、全学が燃えに燃えていた頃でした。やがてその火が広が

り、1994年のBK Cへの移転へと繋がりが、現在に至っています。BK Cへの移転を目指して、その前の1992年に電友会の組織が生まれました。その頃は、辻村寛先生などをはじめとした立命館生え抜きの先生に交じって、電気工学科(電気電子工学科)の全教員も大いに電友会設立に奮闘したものでした。

電気電子工学科はBK Cへの移転を契機として、2学科また3学科に拡張され、次年度(2012年度)から再び2学科制に戻りますが、やはり民主主義の伝統とフランクでかつ深化した電子システム系での教育・研究に関する議論の伝統を絶やさないことが、これからも重要かと思えます。

さて、私の研究室(システム制御工学研究室)では、確率制御システム理論と信号・画像処理を研究テーマに、卒研生の指導を始めた1989年度から、今年の2011年度の終了までの間、博士課程学生11名、修士課程学生115名(2007年度からは久保研究室の学生を含め)、学部卒研究生308名(2005年度からは久保研究室の学生を含め)が卒業・修了しました。電友会会員を約300名輩出したことになり、各界で活躍していることは大きな喜びです。

1988年4月に、本学に赴任した時の感激が思い出されます。大阪大学時代は、助手(現、助教)、学内的には講師ということでしたが、助手は教授会はもちろん学科の教室会議にも参加できないという風通しの悪い不自由な生活でした。立命館は自由と清新、また民主的な大学という雰囲気が満ち溢れていた頃でした。衣笠時代は、正月には、総長、理事長、教職員組合代表など全教職員が、法学部の建屋の1階にあった生協食堂に集まり、新年を祝う会がもたれました。ミカンと日本酒一合瓶が出されました。そのころは全立命館構成員が一堂に会する場が少なからずあり、全学が燃えに燃えていた頃でした。やがてその火が広が

これからも立命館

山下 勇

(昭和47年理工学部電気卒)

研究面では、確率システム理論、確率制御理論、信号処理、画像処理に関する研究で多くの成果を挙げることができました。特に、確率システム理論の根幹であるカルマンフィルタ理論の応用として始まったGPS（カーナビで有名な衛星測位システム）に関する研究では多くの成果を収めることができ、各界から注目を集めています。この研究を契機として1999年から、毎年米国で開催される米国航法学会（大域的衛星航法システム（IONGNSS）の国際研究会）に約30編の論文を発表でき、同時に延べ50名を超える院生が参加し、院生は国際研究会の雰囲気を感じ、わい国際化の経験を積むことができました。

定年退職後は、当分は特別任用教授として、教育・研究生活を続ける予定ですが、詳細は未知数です。ただ、私の恩師である砂原善文先生のご尽力で始まり、今年で44回目を迎える国際会議「確率システムシンポジウム」の組織委員長としての任をここ数年は果たし、次世代に繋ぐことが最後のアカデミックな仕事になりそうです。表題の私の座右の銘のごとく、過去を問わず一未来を願わず、毎日・毎日を大切に、なすべきことをなし、しっかりと楽しみな日々を過ごすと思っています。

末筆ながら、電友会の益々のご隆盛と会員の皆様方の益々のご健勝を祈念しつつ退職の挨拶といたします。本当に24年間お世話になりました。有難うございました。厚く御礼申し上げます。

私は、昭和24年に京都は祇園南にある宮川町界隈の電器店の二男として生まれました。父は復員後、激動の中を祖父とともに町の電器屋さんナショナルのお店を営んでいました。お店ではナショナル品と手作りの照明器具等も売っていましたし修理や工事も行っていました。父はテレビの組立講習に行っていた。昭和28年頃でしょうか、真空管の14インチテレビを組み立てました。毎日、町内の方々が我が家にテレビを観にきました。部屋を真暗にして皆さん正座してテレビを囲んで力道山の空手チョップやお相撲など、映画オールウェイズ三丁目の夕日にでてくる場面と同じです。

そのころの商店街は夜の10時頃までお店を開けていました。激動の中で活気に溢れていました。そんな中、電器店は松下電機の発展とともに繁盛しました。私は円山幼稚園から六波羅蜜寺の隣にある六原小学校へと進みました。父は映画、特に洋画や音楽がとても好きで、忙しい仕事の合間に幼い私を連れて映画館に行くのです。私は字幕が読めませんから父が時々小声で読んでくれます。その頃の映画館はいつも満員で映画の途中

から入って途中で帰ります。映画の後は寺町のスター食堂等で洋食を食べさせてくれます。ナイフやフォークの持ち方や食べ方も父から教わりました。音楽はタンゴやグレン・ミラーなどをSP盤で聞かせてくれました。父から教わった映画や音楽がその後の私に影響を与えたのです。子供のころ、町内の皆さんや家族に囲まれて幸せな日々を過ごすことができました。母は小学生の私を立命館中学に受験させ立命館中学に入学することとなりました。ここから、私と立命館の出会いは始まります。電器店から四条河原町で市電15円に乗って烏丸車庫の立命館中学に立命館の学帽と学生服で通いました。今も付き合っているお友達が沢山で学へ来られ、講堂で母と一緒にお話を聞いたこともあります。母は「とても偉い先生なのよ」と云い、私は「へえ、そうなのか」と云った記憶があります。中学では校歌も教えてくれて「いい歌だなあ」と身体に浸み込みました。立命は男子校ですが、周りには一杯女子校がありました。女子と親しくなるためにということもあって、中学3年生のときにベルベツとい

うバンドを始めました（このバンドは今も続いているのです）。その頃、私はプレスリーが好きで、ベンチャーズやビートルズがやってきて日本の若者に洋楽ロックが浸透し始めました。映画もよく観にいて父と映画の話をしました。立命館中高は大変自由な学校でした。バンド練習は学校の視聴覚教室を使わせてくれました。私の電器屋さんの倉庫でも練習しました。大音響なので近所迷惑と思うも父も母も全くいやな顔一つしませんでした。音楽と映画を楽しみ、勉強もそこそこしたようです。そして大学進学となったとき、ほんとは電気にゆきたいが数理は苦手だしなあ」と迷っていました。そのころお付き合いしていた京女の女子から「親切的な物理（上中下3巻）」という本を頂きました。これが転機となりました。この本を読むと大変おもしろくて物理のロマンや夢を感じることができ、寝ても覚めても風呂の中でも読んでいました。解けない問題はなかったです。私は思いました「これは勉強ではない。音楽や映画やマンガを読むときと同じ、物事に直面するときこういうなれば怖いものはない」と。ということで立命館大学電気工学科に入学することができました。大学では当然に映画研究会に入りましたし、衣笠にいくとヘルメットを被った学生が一杯いて立て看板が一杯あって学園紛争です。講義は時々あっても1年の試験はなかったです。アルバイトは当然に

バンドです。当時はGOGO喫茶といって不良少年少女の溜まり場でした。皆さんもご存知かも知れませんが岡崎の天王町にあるキャッツアイというディスコ等が私たちがベルベツの活動の場でした。大学では結構勉強もしました。私は強電が好きでした。電気磁気学や電気回路が好きでした。口頭試験でCGSとMKS単位系のことを質問されたときに明確に回答することができました。この先生から「ここ数年、この諮問をしているが君のように適正に回答できた学生はいない」と大変褒められた記憶があります。電検三種や電気工事士も在学中に合格しました。さあ、就職活動となったとき、パンドの馬場弘文（ばんばひろふみ…昭和48年経済卒）からプロの道と一緒に進まないかとの誘いを受けましたが私たちはサラリーマンを選択し、馬場はプロを目指しました。その後、馬場は大変苦勞しましたが「いちご白書をもう一度」でブレイクしたのです。馬場とは円山幼稚園・立命館中学からの同級生で、今もバンドで一緒にやっています。就職は大学の先生から「君ならもっといい会社があるのに」といわれましたが、父の電器屋さんのこともあり近畿電気工事（現きんでん）に就職しました。昭和47年卒業です。あとで知ったのですが母が校友会の終身会費を払っていました。今は強制徴収ですが当時は選択でした。このことが後に好影響してきます。きんで

うバンドを始めました（このバンドは今も続いているのです）。その頃、私はプレスリーが好きで、ベンチャーズやビートルズがやってきて日本の若者に洋楽ロックが浸透し始めました。映画もよく観にいて父と映画の話をしました。立命館中高は大変自由な学校でした。バンド練習は学校の視聴覚教室を使わせてくれました。私の電器屋さんの倉庫でも練習しました。大音響なので近所迷惑と思うも父も母も全くいやな顔一つしませんでした。音楽と映画を楽しみ、勉強もそこそこしたようです。そして大学進学となったとき、ほんとは電気にゆきたいが数理は苦手だしなあ」と迷っていました。そのころお付き合いしていた京女の女子から「親切的な物理（上中下3巻）」という本を頂きました。これが転機となりました。この本を読むと大変おもしろくて物理のロマンや夢を感じることができ、寝ても覚めても風呂の中でも読んでいました。解けない問題はなかったです。私は思いました「これは勉強ではない。音楽や映画やマンガを読むときと同じ、物事に直面するときこういうなれば怖いものはない」と。ということで立命館大学電気工学科に入学することができました。大学では当然に映画研究会に入りましたし、衣笠にいくとヘルメットを被った学生が一杯いて立て看板が一杯あって学園紛争です。講義は時々あっても1年の試験はなかったです。アルバイトは当然に

んに入社して、色々経験しました。設備事故や災害で辛いことや悲しいことがありましたが、楽しいことも沢山ありました。書き出すときりがありません。阪神大震災の電気復旧でドタバタしていたころ、当時の岡社長さん（昭和32年経済卒、現・顧問）から呼ばれ「君は立命だろう、大阪校友会の事務局をやってくれ」ということで、社長命令です。断ることもできず大阪校友会の事務局（以降、副会長）をやることになりました。そして岡社長さんとも大変親しくなりました。平成11年からは校友会本部常任幹事・総務委員。今は奈良県校友会顧問となっています。喜んで楽しかったことは50才台に発電プラントの設計等によく海外に行ったことです。特にODA案件でエジプトに2回行って現地設計をしたのですが、プラント場所があのモーゼの「十戒」でチャールトン・ヘストンが紅海を割るシーンの付近でした。国際入札はスペインに負けましたが「十戒」の場所が見られ私は満足でした。

現在、私は、立命館本部校友会で色々な活動をしています。総務委員会では大先輩の荒木さん（立命電友会・前会長、理工系同窓会連絡協議会前会長）と親しくさせて頂いておられますし、私たちのバンド・ベルベッツから馬場弘文とともに全国校友会総会にたびたび出演しています。昨年は香川県校友会総会にも出演して参りました。また、ベルベッツは立命館中学の同級生がメンバーで毎年ライブを行っています。昨年のライブには本部校友・父母課から取材に来ていただき本年1月号会誌に載っていますからご一見ください。私は定年退職後、きんでんOBが経営している会社（株式会社イー・プランニング）にて勤務しています。昨年から太陽光関係の電子デバイスの研究開発で電子光情報工学高倉教授さまの指導も得て研究を進めているところです。そんなことでよく草津BKCに行くのですが、大学がとても美しく、カフェもあればレストランもありで昔の学園紛争当時の思い出に出てくる立って看板やヘルメットなどは全くありません。自由だけ定形化してしまい何となく活気溢れるあの不安と情熱がないように感じるのは私だけでしょうか。優しかった父も母も既に他界し宮川町のあの電器店も永らく空家同然となっていたのですが、妹とともに「ベルベッツ倶楽部」というカフェ・ラウンジをオープンしました。バンドメンバーや校友の方々もお見えになって懐かしいお話しをしています。皆さまも機会ありましたらお立ち寄りください。私は、校友会本部や奈良県校友会そして電友会の一員として今後も活動して参りますのでよろしくお願ひします。私と立命館の【絆】のご紹介でした。そして「これからも立命館」で進めて参ります。

以上



H23. 9月:ベルベッツ ライブ in 京都



H23. 12月:ベルベッツ倶楽部に

写真の説明：ベルベッツのメンバー（立命館中学同級）筆者は右端

「立命館で学んだこと」

堤 圭 司

(博士後期課程3回生)

私が立命館大学の電子光情報工学科に入学したのはちょうど8年前、2004年の4月でした。学部生の4年間、博士前期課程の2年間を経て、2010年4月から、博士後期課程に在籍しています。当時、立命館大学に入学したばかりの私には、今の自身の将来像が想像できたかといえば、少しも考えていなかったというのが正直なところだと思います。大学入学から現在に至るまで多く人との出会いや数々の貴重な教え、体験が現在の私を形作ってくれました。この度、幸運にも本原稿を執筆する機会を頂いたことは、今後の社会生活を歩む前に、自身の今までのことを振り返る良い機会になると考え、お話しさせて頂くことになりました。また、稚拙な文章ではありませんが、新しく立命館大学にご入学された新入生たちにとって、本原稿が今後の大学生活の参考になれば幸いです。

私が高校3年生で大学入試を控えていたころ、どの学科に入りたのかを大いに悩んだのを覚えて

います。当時の私は大学で学んだ知識や経験が将来の社会生活においても大きく影響すると思ったのです。そこで私は親に相談し、この学科を受験すべきか聞きました。父は、自分のやりたい事が出来る学科に行きなさいとだけ言い返しました。私は漠然とではあります。が物づくりに携わる仕事か、と考えると考えていました。当時の私は携帯電話やゲーム機等がどのように動いているか、記録媒体であるCDROM等がどのように情報を記録しているのかに興味を持っていました。高校でそのような実際に社会で役立っている物の物理現象を教えるはくれませんでした。インターネット等で調べた記憶もありませんが、当時の私では理解することが出来なかったのを覚えています。そこで私はこれらのことを学べる学科に行き将来私も社会、人々の役に立つような物を作る学科に行こうと考えました。

電子光情報工学科を選んだことは正解でした。電気・電子に基礎

である電気回路や制御工学だけではなく、半導体や光工学、情報工学などの様々な分野を勉強できたことは私にとって非常に有意義なことでした。特に半導体に興味を持ったことがきっかけで、今の私があると思っています。また学部時代に多くの友人と出会えたことは、自分の人生の一部として大きく刻まれています。学部時代の専門科目の講義は想像していた以上に、難しく、理解するのに多くの時間を費やしました。それらを挫折せずにやってきたのは友人の存在があったからだと思います。彼らとは学校で接するだけではなく、お互いの家を行き来して遊んだり、机を並べ一緒に勉強し、共に鍋をついたり飲んだり、同じ釜の飯を食べる間柄でした。一人暮らしをしていた自分にとって彼らは友人を越えた家族のような存在であったと思います。今では多くの友人は就職し、会う機会も少なくなりましたが、時々会って近々の状況を飲みながら聞いたり、メールでやりとりすると不思議と元気を貰った気分になります。高校のときに、大学で友人となった人は一生の付き合いとなる人だと聞いたことがありますが、まさにその通りになりました。

また、何よりも私の生活に最も影響を与えているのは、3回生の後期から始まった研究室での研究活動でした。研究室に配属されるまで学んできたことは既存の知識だけで、実際の物を作るという経験はほとんどありませんでした。初めて高倉・峯元研究室に配属されて実際に太陽電池の素子を作製し、評価を行った時の感動を今も覚えています。しかし、私が初めて作った太陽電池も教科書どおりに作製し、既に既存の知識であることが後になってわかりました。研究室に入ってからは、既存の技術や知識を繰り返し反復することは研究ではないということを先輩たちからよく聞かされました。確かにそれまでの私の習ってきた物は全て教科書に答えが載っているものでした。先輩方からは研究というものには新しい物、知見を考え、それに對してどのように自身がアプローチするかに価値があるということを聞かされました。それは今までの私の行ってきた勉強法とは異なる物であり、新しい物を生み出す為に自身がどういった方法で物を作っていくかということは一から学ばなければなりません。元先生や先輩方に研究を通して懇

切丁寧に指導して頂いたことは何よりも貴重な財産になっています。また、自身が研究室内で年長者となり、先輩に指導する立場になって初めてこの大切さにも気づかされました。今でも日々研究を重ねることに更なる勉強が必要であると痛感する日々です。これらの経験がいつしか実を結び、立命館大学で学んだ事を生かして人々が感動するような技術の開発に携われる日が来れば、これ以上の幸せはないと考えています。

今までの大学生活を振り返っただけでも自分が本当にたくさんの人達に支えられてきたことが実感できます。立命館大学で得てきた経験は、今日の私を形成する上でかけがいの無い財産です。お世話になった方々のご好意を無駄にしないためにも、今後着実に前進を重ねて生きたいと考えております。

また、最後ではありますが、今回このような機会を与えてくださいました。立命電友会事務局の皆様には、深く感謝致します。また、学びの機会を与えてくださいました。高倉秀行先生、峯元高志先生をはじめ、ご指導、ご支援頂いた諸先生方、先輩、友人、後輩、家族の皆様には、今後の自分の活躍を持って感謝させて頂きたいと思っております。

2011 (平成23) 年度 電子システム系卒業生修了生進学・就職状況

2012年3月に修了・卒業の大学院生・学部生の進学・就職状況を表Iに、就職先一覧を表IIに示します。2011年度は、3月の東日本大震災、6月のタイの洪水、欧州の財政危機や急激な円高の影響で、従来の厳選採用に加えて、就職活動がさらに長期化し、企業にとっても学生にとっても厳しい年となりました。

卒業生全体に対する進学者と就職者の割合は80%です。大学院博士前期課程155名のうち、進学者は1名、就職が137名(88%)、活動中とその他が17名(11%)です。学部生317名のうち進学者が112名(35%)、就職が128名(40%)、活動中とその他が77名(24%)です。従来、進学者全体の約半分でしたが、この2年間で低下し、また、学部生の就職が厳しいと言えます。

電気・電子・機械の就職者数は156名で、過去2年間と比べて30%程度増加し、就職者全体の59%を占めています。一方、電力・ガスは40%減少し、自動車も20%減少しました。情報・システムと運輸・通信は例年並みです。また、その他が30%近く増加し、特に学部生の就職先が多様化しています。

自分が何をやりたいかについて早い段階から考える機会を学生に与えるために、電子情報デザ

イン学科では、今年度から2回生の前期と後期に講演会を行うことにし、学科OBの方とM2に、仕事や勉強の仕方に関する話をさせて頂きました。院進学の意義や社会人に求められることに関して、非常に参考になり、今後、真剣に考えたいという感想が多数ありました。今年になって、自動車は回復しつつありますが、家電と半導体は厳しい状況です。今後とも電子システム系OB・OG諸氏の一層のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。(就職委員 山崎 勝弘)

I. 卒業生・進学者・就職者一覧

2012年2月27日現在

Table with 5 columns: 卒業生, 進学者, 就職者, 活動中(内定ありも含む), その他. Rows include 大学院(電気電子工学科), 大学院(電子光情報工学科), 大学院(電子情報デザイン学科), 電気電子工学科, 電子光情報工学科, 電子情報デザイン学科, 合計.

II. 就職先一覧

(大学院・修了生の就職先も含む) (順不同敬称略)

Table with 2 columns: 業種, 企業名. Rows include 電気・電子機械, 電力・ガス, 自動車, 運輸・通信, 印刷, 情報・システム, その他.

第12回関東立電会開催

第12回関東立電会(関東在住・電気科OB会を、10月1日(土)10時30分より立命館東京キャンパスのスタッフの皆様のご協力の下、同キャンパスにて開催致しました。出席者は25名でした。池田嗣郎代表幹事(S33卒)の挨拶の後、電気電子工学科の高山教授(S59卒)から下記学園報告を頂きました。

① 2015年茨木キャンパス開校②長田理事長再選(2期目)③電気電子工学科と電子光工学科の統合化④電気卒の就職状況(2011年91.2%)⑤立命電友会・創立20周年記念祝賀会開催(2012年7月7日)への出席呼掛け⑥立命電友会の「HP」紹介と「同窓生クローズアップ」への積極的な投稿呼掛け。ご講演は、ルネサスエレクトロニクス販売株式会社 代表取締役社長の三浦芳彦氏(S49卒)から「日本の半導体産業の変遷と課題」でした。

(I) 日本の半導体産業の変遷

- ・製品について、1990年代欧米メーカーは「マイクログロセサー、ロジック」への製品絞り込み「韓国、台湾メーカーは「DRAM」への集中投資」を行ったのに対し、日本は従来ビジネスモデルを継続し、新ビジネスモデルを構築出来なかった。
- ・生産形態も世界の趨勢は、日本が誇るIDM(設計から製造販売までの一貫企業)から、海外企業が強みを持つファブレス企業、ファウンドリー、EMS等へと移行した。この為、日本半導体メーカーは1

90年代と現在を比較すると世界シェアで下記の様な衰退化を辿る事になった。生産高世界シェア...50%↓20%、地域別出荷シェア...39%↓16%(東南アジア...53%にアップ)半導体メーカー世界Top10の日本企業数...6社↓2社(東芝、ルネサスエレクトロニクス)

(II) 日本の課題

- (1) 日本の強みを活かす
 - ・優秀な人材・東北震災で壊滅的被害を受けたルネサス那珂工場が予想より早く立ち上がった。日本人の優れた人材の強みの発揮であり、管理力、現場力の成果でもある。
 - ・強み製品...強い製品の高い「世界シェア」の一層の維持向上。マイコン(ルネサスエレクトロニクス...30%)、フラッシュメモリ(東芝...27%)、DRAM(エルビオ...15%)他に強い製品例...ロジック(富士通)、画像センサー(ソニー)
 - ・高信頼性...日本が得意な自動車、FA、環境、医療、等、高信頼性が要求される分野への深耕。
- (2) 今後の課題
 - ・新市場分野...クラウド・コンピュティング分野、高齢化社会対応ニーズへの深耕。
 - ・新興国市場...タインキー・ソリューションの拡大。
 - ・選択と集中...製品の絞り込み、AASPの競争力強化、ハード&ソフトソリューションの提案、水平分業の拡大、IDMを活かせる分野への特化

(自動車、FA、等)今後、課題の対応をキチンと進めて行けば、未だ未だ日本の半導体産業には明るい未来が有るとの心強いお話をしました。

同じ校友のお話であり、熱心な質疑応答も有って有意義な講演会でした。ご講演頂きました三浦社長に感謝致します。その後、同じサピアタワー内に在るイタリアン・レストランで懇親会を実施致しました。

星野章氏(S38年卒)の乾杯の首頭で懇親会は始まり、お互いの近況報告等、懇親を深める事が出来ました。そして、全員による校歌斉唱でお開きとなりました。同じ校友での気楽さがあり、お互い楽しい一時を過ごす事が出来、感謝でした。

米澤 正勝(昭36年電気卒)記

同窓会だより

井上研究室同窓会開催報告

井上和夫先生の研究室に籍を置いた電気工学科と情報工学科の卒業生を主な参加者とした「井上研究室同窓会」が2011年10月8日土曜日18時30分より、京都駅ビル内の「ホテルグランヴィア京都」にて開催されました。本同窓会は、「井上研究室」発足以来、2年毎に開催されて来た恒例の同窓会です。ここ数回は、京都市内六角堂近くの旅館や三条通りに面した和食チェーン店を会場としてきました。参加者がありました。

今回の同窓会は、井上和夫先生が2011年3月をもって、立命館大学での45年間もの永きにわたった講義を終了され、完全に立命館から引退されるという記念すべき、そして、幾分寂しさを伴う同窓会という意味合いもあります。そこでその旨を伝えて、連絡先が分かっていない同窓生に参加を呼びかけ、井上和夫先生ご夫妻、同窓生、そしてその関係者で総勢64名という多数の参加となりました。

受付終了後、別室で集合写真の撮影を終えてから、同窓会会場に移動する事になっていました。10月の三連休の初日の土曜日、かつ結婚式には験が良いとされる「友引」という事もあって、結婚披露宴が多数執り行われており、写真撮影に向かう途中、幸せ絶頂の花嫁さんに出会えた事が何とも嬉しく、今後のこの日本を支えてくれる事を願ってしまつた次第です。

同窓会では、今回の同窓生への案内までを主に担当した幹事の私が慣れない司会を務め、会場準備・交渉を行なって下さった幹事の森さんが会の進行を説明されました。そして、1968年卒業の渡辺様に乾杯の首頭を取って頂き、記念すべき同窓会が始まりました。会場は、先生や同窓生との2年ぶりの再会の喜びだけでなく、同窓生一人ひとりが井上先生への慰労の念と感謝の気持ちを持ち寄った暖かくも和やかな雰囲気包まれていました。

今回、初めて参加したという同窓生もおり、互いに学生時代を懐かしみながら、現在・将来を語り合うという2年に一度ではあります

が、同窓生が集う事の意義深さを痛感しながら、有意義な時が流れました。

始めのうちは、テーブルごとに和やかに懇談・自己紹介や近況を語り合っている様子でしたが、徐々に馴染み、盛り上がりを見せ、テーブルを移って、同期の方々と大いに語り合い、さらにデジタルカメラやケータイ電話のカメラで写真を取り合う様子があちらこちらで見られました。

盛り上がりつつある中、井上先生とオペラ歌手の風間さんの「ミニコンサート」が始まりました。同窓生への「サブライズ」です。風間さんの軽快な進行のもと、先生自身が近況説明をされた後、風間さんのオペラ調の歌唱に続いて、井上先生は、ドイツ歌曲を披露されて、会場は最高潮に盛り上がり、割れんばかりの大きな拍手が沸き起こりました。

興奮が冷めやまぬ中、永らく幹事を務めてこられた亀井先生から幹事交代の挨拶があり、最後に、井上先生から多くの同窓生がそれぞれで活躍する様子が伺え、頼もしく感じた旨、そして今後健康に過ごし、また、2年後に会いたいとの締め言葉頂きました。

閉会の後には、数人から10人程度の複数のグループで会場を後にしました。

次回は、2013年の10月11日頃を予定しています。今回ご参加頂いた同窓生、並びにご都合によりご参加頂けなかった同窓生の皆様のご参加をお待ちしております。なお、会の終了時に1971年大学院修了で立命電友会副会長の瀬



2011年10月8日 立命館大学 理工学部 井上研究室 同窓会 於 ホテルグランヴィア京都

見様より、2012年7月7日の「立命電友会創立20周年記念祝賀会」の案内があったことを最後に報告いたします。

第6回 南会長【活動報告】

48、2011年8月29日(月)13時、企業2社にバナー広告継続依頼の電話をする。

49、2011年9月3日(土)13時30分、数物会主催セミナーに中山会長よりご招待を受けるが所用の為出席出来ず。

50、2011年9月10日(土)17時、立命館大学京都校友会主催の秋の文化事業に出陣。冒頭東日本震災で被災されました方々に黙祷をさされたあと、立命館大学都市防災研究センターの吉越教授の講演を拝聴後、先生を囲んでの会食、懇親会で歓談。

51、2011年9月17日(土)13時、立命電友会第6回総会・創立20周年記念祝賀会の第6回準備委員会が開催。会長挨拶の後、開催案内資料、記念品の選定、講演会の内容、余興など多彩な討議を行う。参加者確保については各役員が各年度卒業生に周知徹底し参加依頼をする。

52、2011年10月3日(月)13時、電友会事務局より依頼のありました立命電友会各役員への「第6回総会・創立20周年記念祝賀会のご案内」の会長名としての文章の最終決定をする。

53、2011年10月29日(土)14時、ホテルグランヴィア京都3F源氏の間にて立命館大学京都校友会2011年度年次総会が開催され出席。15時、ホテルグランヴィア京都7F徒然の間にて、立命館大学理工系同窓会連絡協議会2011年度第2回役員会に出席。経過報告、校友サロンの充実化、他諸議題を討議した。17時、ホテルグランヴィア京都3F古今の間にて、立命館大学校友会2011年度総会に出席。17時30分、同所にて懇親会が開催され多数の方々と歓談しました。尚オール立命館校友会2011IN京都の案内冊子(パンフレット)に、電友会会長として協賛広告掲載する。

54、2011年10月30日(日)10時30分、数物会主催が京都タワーホテル9F八咫の間で開催され出席。引き続き同窓懇親会に出席立命電友会会長としてお祝いの挨拶をする。中山会長交代されることとて長年の功績に「慰労のお言葉を添える。その後次期数物会会長の河野教授

様、情報会会長の上嶋様、立命館大学父母課の船尾様をはじめ多数の方々とお話ししました。また立命電友会の色々な取り組み活動していることに大きな評価を頂き、

55、2011年11月5日(土)13時、立命電友会第6回総会・創立20周年記念祝賀会の第7回準備委員会が開催。会長挨拶の後、HP進行状況、余興の進行状況、等についての報告、記念品の検討、参加者確保、当日スケジュール案、募金、寄付金などについて討議をした。

56、2011年11月10日(木)14時、コンクリートコロシアム(榎藤尾会長に立命電友会第6回総会・創立20周年記念祝賀会の参加依頼と「寄付のお願い」を要請する。

57、2011年11月21日(月)18時、電友会幹事小山 仁平氏(昭和25年卒)のお通夜に参列。

58、2011年12月4日(日)10時、京都タワーホテル9F紅花の間にて立命電友会顧問会が開催。会長挨拶の後、次期役員改選の件(特に次期会長候補者の選出について)活発な意見交換がされる。

59、2011年12月8日(木)13時、立命電友会臨時役員会が開催。開会宣言、会長挨拶の後、田中副会長に議長をお願いして討議に入る。第6回総会・創立20周年記念祝賀会の準備委員会での決定内容を提示し、討議、ご意見を賜る。寄付金の趣意書の手配、顧問会の内儀報告、次期会長候補についてなど多岐にわたり広く討議し意見集約された。

60、2011年12月27日(火)13時、立命電友会事務局より依頼のありました「立命電友会創立20周年記念事業協賛」への「寄付依頼書・趣意書の会長名の文書」を了承する。

61、2011年12月29日(木)19時、電友会会員神山 清房氏(昭和42年卒)のお通夜に参列。

62、2011年12月30日(金)10時、電友会会員神山 清房氏(昭和42年卒)のお葬儀に参列。

63、2011年1月28日(土)13時、立命電友会第6回総会・創立20周年記念祝賀会の第8回準備委員会が開催。当日大阪・東洋学園の教育実習発表会での講演依頼があり欠席。準備委員会では参加者確保、当日スケジュール案、募金、寄付金、HP、余興などについて多彩な討議を行って頂く。

- 64、2011年2月9日(木)13時、亀岡市の宮木電機製作所を訪問し、河原社長、他役員の方々と面談し「立命電友会第6回総会・創立20周年記念祝賀会」の社長自身の参加と参加費の依頼。社員の方の参加勧誘も要請する。他協賛事業へのご寄付への協力もお願いした。

学系便り

平成24年度 電子システム系の主な役職者

- 電気電子工学科 ◎学科長 服藤 憲司
就職委員 今井 茂
電子情報理工学科 齊藤 茂
就職委員 森本 朗裕
電子情報デザイン学科 藤田 智弘
就職委員 福井 正博

【退職】

- 荒木 義彦 平成24年3月31日、定年退職
杉本 末雄 平成24年3月31日、定年退職

【新任】

- 鷹羽 淨嗣 平成24年4月1日、電気電
子工学科教授に着任
瀧口 浩一 平成24年4月1日、電気電
子工学科教授に着任
久保 博嗣 平成24年4月1日、電子情
報工学科教授に着任

Table with columns for birth year (卒年), name (氏名), and death year (訃報). Lists members like 河嶋 秀夫 (卒年 昭12年, 訃報 平成23年1月2日), 中村 正夫 (卒年 昭16年, 訃報 平成23年3月), etc.

事務局便り

立命電友会会報38号の発行にあたり、ご寄稿頂きました皆様に対し、心よりお礼を申し上げます。7月7日(土)開催の総会及び20周年記念祝賀会に申込みがまだの方は、すぐに申込みをお願いします。(宮林)

立命電友会連絡先
〒525-1857 滋賀県草津市野路東1-1-1
立命館大学理工学部電子システム系内
立命電友会事務局 高山 茂
電話 077-(561) 26662
FAX 077-(561) 26663
E-mail: kma8019@se.ritsumei.ac.jp
http://ritsumei-denyukai.com/
(会報の題字は久保之俊氏)